まちづくりワークショップ（全７回）
実施報告書

平成２９年８月

北 名 古 屋 市

市 民 活 動 推 進 課

１　開催目的

第２次北名古屋市総合計画の策定にあわせ、市民が、行政職員とともにまちづくりについて「自分たちやグループでできるそれぞれの役割」を話し合い、まちづくりを自分ごととして考えてもらうきっかけとなることを目的として開催しました。

２　実施手法

ファシリテーターに北名古屋市市民協働アドバイザーの加藤　武志　氏を招き、第２次北名古屋市総合計画（素案）の分野別まちづくりに示された６つの柱立てを参考に、全７回のワークショップを実施しました。

加藤　武志　氏
北名古屋市市民協働アドバイザー
まち楽房有限会社代表取締役
中京大学非常勤講師

≪開催日時、場所、テーマ≫

回	日時	場所	テーマ
1	５月２８日（日） 午後３時２０分 ～午後５時	健康ドーム １階　研修室	【ときほぐし】 キックオフ! 次に繋がる仲間作り
2	６月６日（火） 午後７時～午後９時	コミュニティセンター ホール	【協働・行財政分野】 市民と行政が力を合わせて まちづくりに取り組むには？
3	６月１８日（日） 午前１０時～正午	コミュニティセンター ホール	【教育・文化分野】 豊かな学びと心を育み文化の薫る まちにするには？
4	６月２２日（木） 午前１０時～正午	北名古屋市役所 西庁舎　４階 大会議室	【健康・福祉分野】 健康で生きがいを持って暮らせる まちにするには？
5	６月２８日（水） 午後２時～午後４時	コミュニティセンター ホール	【安全・環境分野】 安全・安心で環境にやさしい まちにするには？
6	７月６日（木） 午後７時～午後９時	コミュニティセンター ホール	【都市基盤・産業活力分野】 便利で快適、魅力ある元気な まちにするには？
7	７月２３日（日） 午前１０時～正午	コミュニティセンター ホール	【とりまとめ】 話し合いから見えてきたこと 改善点や付け足しがあれば…

≪各回の進め方の概略≫

第１回

○　北名古屋市総合計画とは

総合計画が、本市に関わる全ての人が共有できるまちづくりの総合的な指針であることの認識を深めました。

○　ときほぐし

ゲーム等を行い、参加者の緊張をほぐし、コミュニケーションを円滑にしました。

○　将来のまちの姿をえがく

「こんなまちになったらいいな！」というアイデアを出しました。

第２回～第６回

○　テーマに紐づく、施策の説明

市職員が施策の概略を説明しました。

○　話し合い

参加者が、興味のある施策や話したい施策に分かれグループを作り、第２次北名古屋市総合計画（素案）の施策別の「めざすまちの姿」と「現状と課題」を示した資料を参考にし、施策についての意見を交換するとともに、３つの切り口でアイデアを出しました。

①私ひとりでもできること
②地域や仲間でできること
③市役所に期待したいこと

○　発表

グループ別で話し合った中から、一番良いと思う取組をみんなで決めて、「イチオシ協働プロジェクト」として、グループ別に発表しました。

第７回

○　まとめ

第２次北名古屋市総合計画（素案）の「協働の考え方」と第１回～第６回までの話し合いの結果を振り返り、出されたアイデア等を評価し、さらに付け足したいこと等をコメントしました。

○　発表

これまでのワークショップで進めてきたことの総括を話し合い、「私たちにできること」という視点で、「円形フリップ」を作成し、発表しました。

※　各回の内容をまとめたものは、次ページ以降のとおりです。

第１回　まちづくりワークショップ

［ときほぐし］キックオフ！　次につながる仲間づくり

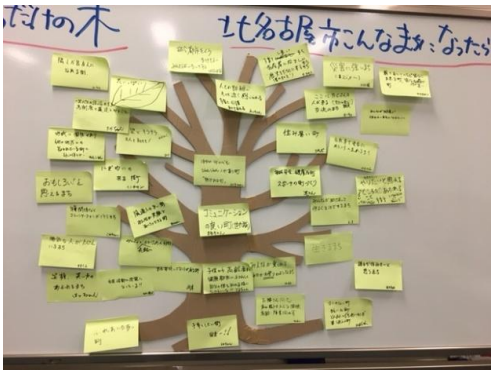
日　時：平成２９年5月２８日（日）午後3時２０分～５時
場　所：健康ドーム１階　研修室
参加者：３７名（うち職員１１名）

○「総合計画」とは？
○なぜ市民参加でつくるのか？今後の進め方について

○夢語り「希望の葉っぱ」世界で一つだけの木

「北名古屋市こんなまちになったらいいな！」

●行きたい・やりたいことがいっぱい！バリエーションに富んだまち
●自分で健康に気づくことができ、日本一医療費のかからないまち
●大人も子どもも、キラキラ・ワクワク！希望いっぱい！のまち
●他のまちからもじゃんじゃん人が集うまち、魅力あるまち
●公共交通の便利で、皆が安全にどこでも行けるまち
●政令指定都市に負けないみんなが活き活きするまち
●年齢関係なくコミュニケーションができるまち
●人と人との距離をもっと近くに感じられるまち
●綺麗なまち、誰でもあいさつが交わせるまち
●世代間を越えたコミュニケーションの良いまち
●みんなが楽しめる毎日がお祭りのようなまち
●名古屋市に負けない認知度がある北名古屋市
●みんなが助け合って、仲良く助け合えるまち
●安全なまち、健康なまち、スポーツのまち
●子育てしやすいまち、高齢者に優しいまち
●みんなが気軽に声かけ・助け合えるまち
●自転車で安全にあちこちへ走れるまち
●おもしろくて、笑えて元気が出るまち
●みんなが笑顔であいさつできるまち
●東西南北にシンボルがあるまち
●隣人がみな友人になれるまち
●陽気な人がたくさん住むまち
●笑顔、笑い声が溢れるまち
●住みやすいまち
●災害に強いまち
●みんなで生きるまち



●朝のあいさつができる仲が良いまち
●お隣さん同士声がかけられるまち
●花いっぱい溢れるまち
●市民活動が活発なまち
●子育てしたいまち。日本一！
●誰もが住みたくなるまち
●交流のまち、学びのまち
●賑わいのあるまち
●健康で住みやすいまち

第２回　まちづくりワークショップ

［協働・行財政］市民と行政が力をあわせてまちづくりに取り組むには？

日　時：平成２９年６月６日（火）午後７時～９時
場　所：健康ドーム１階　研修室
参加者：４９名（うち職員１５名）

6-1 コミュニティ・市民活動

まちづくりワークショップでのイチオシ協働プロジェクト

小学校単位のコミュニティをつくる

小学校区単位で自治会や子どもたちが集まることで、大人数で防犯について協力し合ったり、まつりをしたり、子どもたちや高齢者の見守りをしたりなど、色々なことができます。

学校を中心にして大人で子どもを支え、大人が高齢者になったら大人になった子どもに支えてもらうようなコミュニティづくりを考えました。

弱者（子ども、高齢者）の見守り

この班は地域で活動しているメンバーが多いので、地域の良いところを PR する、道路の清掃や声かけ、子どもや高齢者の見守り、仲間を増やすといった意見が多く集まりました。

行政には活動支援や活動費を補助して欲しいという意見が挙がりましたが、一度原点に戻って考え、その中から、イチオシ協働プロジェクトを決めました。

6-2 人権・共生・男女共同参画

まちづくりワークショップでのイチオシ協働プロジェクト

１人１人が男女関係なく助け合い、地域で世代間交流の場をつくり、参加する！

自分たちでできることは、男女関係なく助け合うこと、地域で出来ることは相談ができる場づくり、行政にお願いしたいことは、人権について相談窓口づくり、子どもたちが健やかに育つための行政の取組が欲しいといった意見がありました。

なにより、自分たちで出来ることは何かと見直し、協働からはじめてみようという結果になりました。

6-3 広報広聴・情報管理

まちづくりワークショップでのイチオシ協働プロジェクト
人から人へ伝えようプロジェクト みんなで書いた意見の中で、一番多かった意見をテーマに選びました。まず情報を広めていかないと、情報が伝わらないと考え、色々な意見が出ました。 行政から市民の方に発信するだけでなく、SNS やロコミなど、個人から個人に伝えていくことが大切だということが、浮かび上がってきました。

6-4行政経営

まちづくりワークショップでのイチオシ協働プロジェクト
新しい施設はもう作らない!!　空き家・空地・空き店舗の有効活用をし、託児所、介護ホームの一本化、防犯になって安心安全なまちづくり 市政に興味を持つことからはじめること。 あいさつからはじめ、個人では SNS で発信して伝える、地域ではパパやご近所同士の力をかりる。空き家や空地、公民館といった既存の施設を託児所や介護施設の一本化、空き家が減ることで防犯になり、安心･安全なまちづくりを提案します。

6-5 多様な連携

まちづくりワークショップでのイチオシ協働プロジェクト
災害キャンプ 私たちにできることは、勉強やあいさつをしたり、元気でいること、地域の資源を知ることが大切だと思います。 自治体と自治体が連携するためには、防災は大切だと考えました。キャンプ場が北名古屋市にはないので、災害キャンプ場をつくり、IT の活用、旅するぬいぐるみを使って SNS で被災地情報の発信、大学生との連携、子どもと話をすることなど、色々な案を災害キャンプで実行したいと思います。

第３回　まちづくりワークショップ

［教育・文化］豊かな学びと心を育み文化の薫るまちにするには？

日　時：平成２９年6月１８日（日）午前１０時～正午
場　所：コミュニティセンター　ホール
参加者：４５名（うち職員１７名）

2-1 学校教育

まちづくりワークショップでのイチオシ協働プロジェクト

情報のリリース＆キャッチ

普通だとキャッチ＆リリースですが、まず情報を発信すること、それを市民がキャッチすることが大切だと考えました。日常的なことでは、あいさつや声かけ、子どもの安全安心、家庭での会話などです。発信された情報として私たち市民が広報を見ることも大切ですが、行政も、多種多様な情報社会なので、SNS といった手段も活用していって欲しいと思います。

将来市民全員がのびのびと生活でき、主体性を持った子ども達が担っていけるようなまちになって欲しいです。

地域と先生のコミュニケーション　子どもたち一人ひとりに愛情を❤

学校の内と外に意見をグループ分けをしました。学校の外の支援では、学習支援やこども食堂、子どもの見守り隊などの意見が挙がりました。学校の内の支援では、コミュニティスクール、地域ふれあい会などの意見がでました。話し合う中で、「学校の先生」が子どもに勉強を教えることに精一杯で取り残されている、ということに気づきました。コミュニティスクール以外の先生と地域とのコミュニケーションやグループワークをしながら、子どもたち一人ひとりに愛情を市民全員で注ぐことで、よりよいまちづくりに繋がると考えました。

2-2 生涯学習

まちづくりワークショップでのイチオシ協働プロジェクト

ドキドキわくわくのだがしや流

まちや生活の中に、色々な人と関わりを持ちたい、多世代と関われる取組を行うために、お金がなくてもその場所へ行けば色々な情報があり、友達ができる場所を作ることが、大切だと思います。

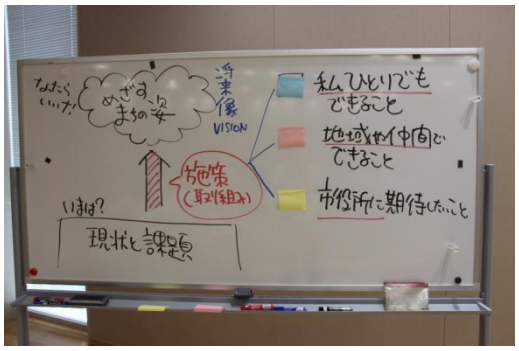
実は、昔はそのような場所がありました。それは「だがしや」です。一から新しいことを行う必要はなく、昔あったものを今流に活かして活用することを提案します。

2-3 文化・芸術

まちづくりワークショップでのイチオシ協働プロジェクト
地域の文化・芸術を知って、次世代の子ども若者たちへ伝えていく～名芸大を巻き込んで～ 北名古屋市は「芸術のまち」を掲げていますが、あまり市民の意識は向いてないように感じます。市民活動団体も高齢化が問題となっているなかで、文化・芸術を盛り上げていくためには、「次世代の子ども達にいかに伝承していくか」が、ポイントではないかと考えました。 個々で活動するだけでなく、大きなコミュニティや仲間づくりを行い、地域で子ども達を育て、その中で、文化や芸術を伝えていくこと、さらに名芸大も巻き込んでいくことを提案します。

2-4スポーツ・レクリエーション

まちづくりワークショップでのイチオシ協働プロジェクト
地域で発見！！健康＝スポーツを 身近にできることは、自分自身が健康であることや、楽しい暮らし、毎日のストレッチ、マラソン大会への参加などが、挙がりました。 「協働」ということを考え、このプロジェクトを考えました。まず、身近なところから活用すること、例えば空き地で気軽にスポーツをするなど、地域で自分たちから取り組み、大人も、子どもも一緒に楽しく遊ぶこと、スポーツをすること、行事やイベントを行うことでより発展できるのはないかと考えます。



第４回　まちづくりワークショップ

［健康・福祉］健康で生きがいを持って暮らせるまちにするには？

日　時：平成２９年6月２２日（木）午前１０時～正午
場　所：西庁舎　４階　大会議室
参加者：４９名（うち職員１８名）

1-1 健康・医療

まちづくりワークショップでのイチオシ協働プロジェクト
情報発信→受け取る→健康づくり　みんなで健康 個人でできることは、食事や運動、心の健康に関心を持つことが挙げられます。そして、ひとりだけでなく地域で支え合って健康づくりに取り組むとよりよいと考えました。検診にも地域で声かけ合って参加することができたらよいと思います。 行政には、現状を把握して情報発信し、市民が受け取り、知ることができることが大切だと考えました。

1-2 地域福祉

まちづくりワークショップでのイチオシ協働プロジェクト
気軽なコミュニティの場をつくる。 今後、地域のコミュニティが減っていく心配があります。個人で出来ることは、コミュニティに参加することや互いに助け合うことなどが考えられます。 行政には気軽に相談できる窓口があるとよいと思います。もっと公民館や公共施設を開放して活用し、気軽に気楽に参加できるコミュニティの場をつくることを提案します。
地域での声かけを大切に!!　みんなでボランティアに参加!! 身近なことでは、イベントやボランティアへの参加、高齢者の見守り、地域ぐるみでまちおこし、防犯パトロール、ひきこもりのためのサロン開催などといった意見がありました。 行政と市民や社会福祉協議会などとの連携及び、継続をはじめ、だれもが参画できるようなまちづくりを目指せたらと思います。

1-3 子育て支援

まちづくりワークショップでのイチオシ協働プロジェクト
地域で子育て孫育て　新しい風（あらし）をふかそう

身近なことでは、あいさつをすることやボランティア、孫の子育てなどが挙がりました。地域では、引越ししてきた家族に情報を伝える機会作りや見守り、だれでも自由に集まれる場所づくりができたらと考えました。行政に期待したいことは、ワンストップサービスや人材育成です。

プロジェクト名は、大きく広げようという思いを込めて、名付けました。

1-4高齢者福祉

まちづくりワークショップでのイチオシ協働プロジェクト
地域の中で出来るだけ楽しいことをみつけて交流。

自ら外出する、あいさつをする、家事をする、趣味をもつなど、自分でできることの意見が一番多く挙がりました。地域でできることは、行事への参加、地域での声かけなどです。行政には回想法をさらに進めてもらうことや、みんなで参加できる場所、楽しめる機会を作ってもらえたらと思います。

まず自分の健康は自分で守ること、自分から交流に参加することをプロジェクトとして提案します。

1-5 障害者（児）福祉

まちづくりワークショップでのイチオシ協働プロジェクト
障害の有無に関わらず、地域や学校などで障害者とともに生活できる受け皿づくり

個人では、相談にのることや偏見をなくすこと。

地域では、互いに関わり合い助け合うこと。

行政は、情報を広報に限らず発信すること、家族だけで背負わないような環境づくり、隣に障害者がいることが当たり前の社会になることを進めてもらえたらと思います。

1-6 社会保障

まちづくりワークショップでのイチオシ協働プロジェクト
きちんと払う　ちゃんと受ける　制度の理解

まず、健康維持が自分でできることだと考えました。地域では、互いに声かけ合って健康に気を付けることができることだと思います。

しかし、まず、自分たちが制度について理解が不十分だという意見が多数出ました。日本の社会保障制度は大変進んでいるため、制度を十分に理解し、制度を守り、きちんと利用することが大切だと考えました。

第５回　まちづくりワークショップ

［安全･環境］安全・安心で環境にやさしいまちにするには？

日　時：平成２９年６月２８日（火）午後２時～４時
場　所：コミュニティセンター　ホール
参加者：３７名（うち職員１２名）

3-1 防災・消防

まちづくりワークショップでのイチオシ協働プロジェクト
防災ループ

まず最初に、防災について個人の意識が大切で、大原則だと思います。個人では、食料の確保、備蓄品を定期的に見直す等の意見が挙がりました。防災への自己意識の確認が個人の役割だと考えます。

地域では自治会や行政と連携して、各地域で防災訓練の練習、消防団の充実が必要だと思います。

行政は、防災の情報を多く公表してもらいたいです。

個人から行政までが相互に繋がることが大切です。

3-2 交通安全

まちづくりワークショップでのイチオシ協働プロジェクト
安全の心得・気づき・安心・交通安全

自分の意識を持つためにできることは、交通ルールを守ること、自転車運転では、傘さし運転をせずカッパを着る、ヘルメットを大人もかぶる、自転車保険に入る等の意見が挙がりました。自動車運転では、シートベルトの着用、車の整備、早目のライト点灯等が考えられます。地域では、見守り・見回りをして地域全体の交通安全の意識を高め、危険な場所の確認、行政では、交差点や通学路のカラー塗装や見やすいカーブミラーの設置といった案が出ました。

プロジェクトとして、「安全の心得」自分の意識を高める事、「気づき」、気づいて環境を整える事で交通安全に繋がるのではないかと考えました。

3-3 防犯

まちづくりワークショップでのイチオシ協働プロジェクト
近所の人々と仲間をつくり団結し、協力しあい、犯罪につながらないまちづくり

個人では、困ったことを解決できる人間関係を作る、夜遅くに歩かない、声かけ運動をする、自宅の周りをいつもきれいにする、という意見が挙がりました。

地域で出来ることは、近所の人との仲間作って団結し、協力し合う、夜のパトロールをすると防犯に繋がると思います。

3-4 ごみ処理・資源循環

まちづくりワークショップでのイチオシ協働プロジェクト
ゴミと資源を分別。まずは大人がお手本に！子ども達にも伝えていこう!! 個人でできることは、生ごみを減らす、不必要なものは、買わない、きちんと分別する、プラスチックごみをきれいに洗って出す、ごみ捨てのルールを守るといった意見が挙がりました。 結論は、プロジェクトのとおり、まず大人が手本となってゴミと資源の分別等に取り組み、子ども達にもそのことを、子ども会の活動などで PR しながら、きれいなまちづくりをしていきたいです。

3-5 環境保全

まちづくりワークショップでのイチオシ協働プロジェクト
環境家計簿を活用して生活環境を変えよう!!　～小さな一歩が CO_2削減へ～ 個人・家庭で何ができるか考えて、節電という意見が一番多くでました。簡易包装のものを買うなど、ごみを出す前に考える、車を使わない、エコカーを使う等の意見がありました。地域では、みんなでお茶会をしながら勉強を行い、ごみ問題等に取り組みたいです。行政は、行政の取組をもっと宣伝して欲しいです。 全ての意見を踏まえ、「環境家計簿」の活用を提案します。これは、各家庭でガスや水道、電気代など１ヶ月でどれくらい使ったか見ることができるもので、これをキーワードにイチオシを考えました。

第６回　まちづくりワークショップ

［都市基盤・産業活力］便利で快適、魅力ある元気なまちにするには？

日　時：平成２９年７月６日（木）午後７時～９時
場　所：コミュニティセンター　ホール
参加者：３２名（うち職員１６名）

4-1 道路基盤、4-2 市街地・下水道、4-4 河川・雨水処理

まちづくりワークショップでのイチオシ協働プロジェクト
みんなの声を形に。それは届くのか…一方通行なのか…

Ａ班は、模造紙に北名古屋市の地図を描いて、地域ごとに付箋の内容をグループ分けしました。付箋が多いところと少ないところに分かれ、付箋が少ないところは市が整備されているところという傾向が見えてきました。

例えば、北名古屋市は川が多く流れており、災害に備え、整備して欲しいと思う反面、自然を多く残すことも大切だと思います。また、特に付箋が集まっているのは徳重地区です。鉄道を高架を進めることを、みんなでもっと伝えたり、説明会に参加したり、一人ひとりが積極的に関わることが大切だと考えます。

4-3 公園・緑地・緑化・景観、5-1 農業

まちづくりワークショップでのイチオシ協働プロジェクト
緑化キャンペーンを行う→その後、リサイクルを考える

まず、自分たちから苗木や樹木を植えることで、愛着がわき、そこを管理しようとする思いが定着して、市民参加が広がり、そこに行政が参加する事から始めた方がよいと思います。

ゴミ拾いや緑化キャンペーン、緑のカーテンづくりなど、個人でできることを行うことで、市民の意識が自然と高まり、緑地づくりや公園をつくることなど、大きなことに発展していくことを考えました。まず、市民活動からはじめること、緑化キャンペーンを提案します。

4-5 公共交通

まちづくりワークショップでのイチオシ協働プロジェクト
利用者を増やす！

「きたバス」について話し合いました。バスの運行本数を増やす、夜間運行の実など行政的な部分は、経費面など現実的に難しいです。まず、自分たちから出来ることをまとめました。結論はプロジェクトのとおり「利用者を増やす」です。私たち自身がマナーを守って紳士的にバスに乗り、「きたバスにのると気持ちがいい」と思ってもらえる環境づくりを提案します。

そして、もう一つは愛着を持ってもらうこと、例えば、きたバスにニックネームをつけることなど、気軽にできることから考えました。

5-2 商業・サービス業、5-3 工業

まちづくりワークショップでのイチオシ協働プロジェクト
知って・知らせて・つながる・キタイ－新たなイメージのまちづくり－

プロジェクト「知って」は自分たちに何ができるか、例えば地元の物を知って使う、地元のお店を知ることなどで、これが一番大切だと思います。

次に「知らせて」は、家族や友人に紹介することや、行政に空き店舗や空き地情報のマッチングを手伝ってもらうことなどです。

「つながる」は、空き店舗でテナントショップの開催し、学生から若者、高齢者まで色々な世代の人が色々な店を気軽に出店できる場所をつくることを提案します。

「キタイ」は、工業地域の暗いといったイメージの払拭、雇用機会を増やす企業誘致などで、将来、もっと色々な人が集まる北名古屋市になったらいいなと思います。

第７回　まちづくりワークショップ

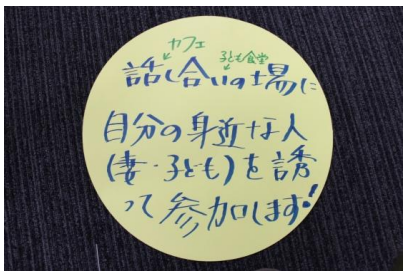
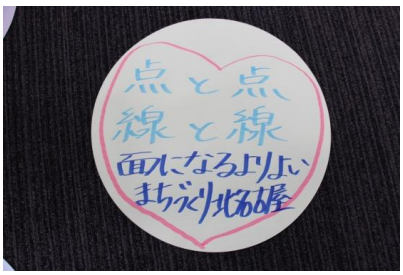
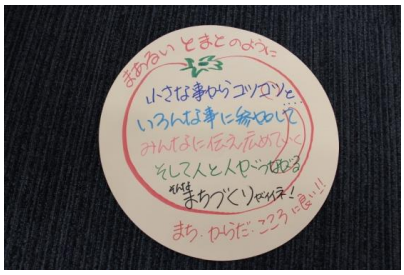
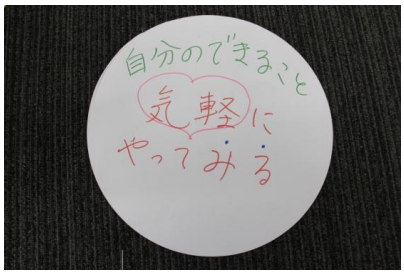
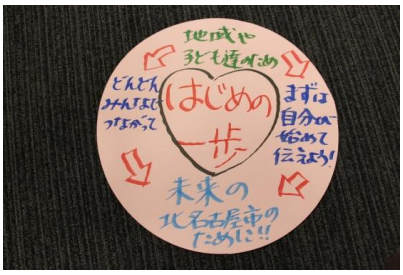
［とりまとめ］話し合いから見えてきたこと　改善や付けたしがあれば・・・

日　時：平成２９年７月２３日（日）午前１０時～正午
場　所：コミュニティセンター　ホール
参加者：３２名（うち職員９名）

○第１回～第６回まちづくりワークショップについてフィードバック

○各回の評価（一部紹介）

分野	評価・手応え	補足・改善
全体	・市民、職員の参画がよかった。 ・みなさんのやる気がすばらしい！ ・人と人との繋がりが、まちをつくっていくと感じました。 ・まだまだ 11 年目！どんなまちにもできるカラーがいいね！	・市民が市の活動に気付き、さらに良くしたいと思うこと ・今回のワークで分野別だったものを繋げていく機会が欲しい。 ・日ごろからみんなで話す場づくりができるとよい。
協働・行財政	・「新しい施設はつくらない」空き家活用の考え方がよいです。 ・災害キャンプすごく参加したいです。 ・北名古屋は女性の参画も多くよい。	・特色を活かす！外に向けてＰＲを！ ・企業にも色々な行事に参加してもらえるとよい。 ・市民が積極的に参加できるとよい。
教育・文化	・「地域の子ども」みんなを育てるという考え方がよい。 ・文化・芸術・スポーツなど、色々な選択肢がある。	・地域とつながることで先生の負担を減らすことができ、長い目でみると子どものためになる。 ・文化・芸術を次世代に伝えていく
健康・福祉	・近所の人と仲良くする。 ・地域での声かけを大切にする。 ・「孫育て」いいね！ ・あらゆる場面での「ワンストップサービス」がよい。	・男性のコミュニティを増やすとよい。 ・自分から交流に参加したら、進んで楽しむとよい。 ・引きこもり予防のために、他世代の声かけがあるとよい。（特に若者）
安全・環境	・地域での防災訓練、確認いいね！ ・夜間防犯パトロールを行うこと。 ・一人ひとりの心がけで自然を大切にできると思う。	・仲間作り、団結の意識づくりをどのように行うか考えていけるとよい。 ・町内会に未加入の人を減らせられるとよい。
都市基盤・産業活力	・一人ひとりが積極的に関わることが大切。 ・緑化キャンペーンを行う発想がよい。 ・きたバス+企業との連携=乗客増加。	・情報の「みえる化」を期待。 ・きたバスを利用した市内施設を周るバスツアーの提案　例）グルメバス（市内施設）、史跡バスなど

○総合計画。わたしたちにできること

●自身の開放　聴く☆自ら動く☆伝える☆協力する
●話し合いの場に自分の身近な人(妻、子ども)を誘って参加します！
●点と点　線と線　面になるよりよいまちづくり北名古屋
●まあるいとまとのように　まち・からだ・こころに良い！！
　小さな事からコツコツと　いろんな事に参加して　みんなに伝え広めていく
　そして人と人がつながる　そんなまちづくりがイイネ！
●自分のできること　気軽に　やってみる
●はじめの一歩
　地域や子ども達のため→まずは自分が始めて伝えよう！
　　↓　　↓
どんどんみんなでつながって→未来の北名古屋市のために！！